



【感謝をとおしてさらに感謝させる神様!】

聖書:ルカの福音書17章11-19節/ 暗唱聖句:テサロニケ人への手紙第一5:18

説教者:鄭南哲牧師 ジョンナムチヨル

ルカの福音書17章は特に感謝に関する御言葉を分かち合う時引用される御言葉です。イエス様がこの出来事の中で教えようとしていることは小さい感謝の力です。イエス様は10人のらい病の患者を癒してくださいました。その10人のらい病の患者の中で癒された後イエス様に来て感謝をささげた人はたった一人だけでした。それもサマリヤの人でした。イエス様はサマリヤ人の感謝に感激しました。そして彼にさらなる恵みを与えて下さいました。わずかな感謝がもっと大きい感謝を招いたのです。この御言葉をとおして我々は感謝の力をもっと学ばされなければなりません。感謝の祝福と感謝の喜びを学ばなければなりません。

<1. 恵みを受けた人は多くいますが、感謝する人は少ないです。>

イエス様は恵みの主です。イエス様にあっては恵みと真理に満ちています。(ヨハネ1:14)

イエス様は行かれるところで恵みを施してくださいました。恵みはプレゼントのようなものです。值なしにただ与えるのが恵みです。ある日イエス様がエルサレムに行く途中、サマリヤとガリラヤの間を通って行かれました。(ルカ17:11-13)

この箇所を注目する必要がありますが、10人のらい病の患者が住んでいるところはサマリヤとガリラヤの間です。どこにも属していない町外れのところです。当時らい病の患者たちは隔離(かくり)されていました。

らい病の患者らと接触すると同じくらい病にかかると信じていたので、らい病の患者らを徹底的に隔離させました。彼らは阻害されたまま生きていきました。サマリヤに属すことも、ガリラヤに属すこともできないほどのみじめな生活を送っていました。サマリヤとガリラヤの間にあるある村に留まりながら死ぬ日だけを待っていました。

イエス様がたずねられたところはそこだったのです。恵みを施すためでした。多くのらい病の患者らをの中で10人の患者にたずねられたのは恩寵の出来事でした。10人の患者らは思いもよらぬイエス様の訪問とともに思いもよらぬ恵みを受けました。彼らは声をあげてイエス様にあわれみを施してくださるようにと懇願しました。イエス様は彼らにあわれみを施してあげました。ルカの福音書17章14節です。“イエスはこれを見て言われた。「行きなさい。そして自分を祭司に見せなさい。」彼らは行く途中できよめられた”

当時、らい病の患者は自分の病気が治ったと思うと祭司に行って、見せる事になっていました。10人のらい病の患者らはイエス様のお言葉を信じて即(そく)、従いました。いつらい病がなおったのかその時点をはっきりわかりません。確実なのはイエス様が言われたその時なおったではありません。彼らがイエス様のおっしゃるとおりに祭司に行って彼らの体を見せるために行く途中できれいになつたのです。10人のらい病の患者らは癒された時みな感激したと思います。ところがその中の一人だけがイエス様に出てきて感謝をあらわしました。

“そのうちのひとりは、自分のいやされたことがわかると、大声で神をほめたたえながら引き返ってきて、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。彼はサマリヤ人であった。”(ルカ17:15-16)

イエス様はサマリヤ人にたずねます。“そこでイエスは言われた。「十人きよめられたのではないか。九人はどこにいるのか。神をあがめるために戻って来た者は、この外国人のほかには、だれもいないのか。」(ルカ17:17-18)

イエス様も残念がっていたようです。どうしてひとりだけが来て感謝をささげるのかと言われたことにはイエス様の心、感情が含まれています。

愛する信仰の家族のみなさん! 恵みを受ける人は多くても感謝する人はその時もいまも少ないようです。それもとっても少数です。感謝することができたサマリヤ人は感謝をささげたあともっと大きい祝福を受けました。肉体的な救いを越えて霊的救いを受けました。(ルカ17:19)

この世に住んでいる人たちの中で神様の恵みを受けてない人はだれもいません。神様の恩寵には一般恩寵もあるし、特別恩寵があります。一般恩寵は誰にも照らされる太陽とだれにも与えられる空気、水のようなものです。我々の体の中には自然治癒力(ちゆりょく)があって病気になってからも深刻な病気でなければ、自然におる場合もあります。

何日か休んだり、一日ぐっすり寝て起きればなおります。これが神様がすべての人に与えられた一般恩寵です。

特別恩寵は神様に出会ってたましいが救われることです。永遠の命を得ることです。神様に選ばれた子どもになるのです。イエス様を信じる人々が受ける恩寵はまさに特別恩寵なのです。

神様の恵みを受けた全人類の中で感謝する人は少ないです。ルカの福音書17章の御言葉をとおして我々は10人の中で一人くらいだけが感謝する生活をしているのがわかります。もし、我々が今日から感謝することを決心して生活するなら祝福された少数になれると信じます。感謝する人には明るい未来が待っています。神様が供えてくださるさらなる祝福と恵みが待っています。つぶやいたり、うらむ人には決して味わうことのできない恵みが待っています。

9人のらい病の患者たちには感謝する心がなかったのでしょうか。違います。もちろん感謝する心は持っていたはずです。しかし、感謝を表すことができませんでした。感謝する心を持っていたとしても感謝を表さないなら感謝する心、その気持ち 자체はあまり役にたちません。もちろん、感謝する気持ちを持っているだけでも尊いかもしれません。なぜなら、病気を治され

た後、その感激を失わされたまま、らい病の患者として生きて来た日をくやしがってしまうよりはいいかもしれません。そして、らい病の時受けた傷といたみを仕返ししようとする心を持つよりかはいいかもしれません。同じく恵みを受けましたが、その恵みに対する反応によって、とてつもない差が生じてしまいます。

<2. 感謝とは何ですか。>

1) 感謝とは受けた恵みを受けたと表すことです。

感謝はある意味とっても単純です。受けたことを受けたとあらわすのが感謝です。難しいことではありません。しかし、受けたことを受けたと表す人は多くありません。感謝を表すことができたサマリヤ人から私たちは感謝の原則を学ばれます。感謝も学ばなければなりません。感謝をよく表せる方々は親や誰かから感謝することを学ばされた方です。感謝とは靈性の訓練であり、靈的成熟の絶頂です。感謝とはきよい習慣です。

感謝するためには考えが深くなければなりません。考え(think)から感謝(thank)が引き出されます。はじめ、恵みを受けた時いだいた心、初心を忘れないことです。その時、感謝が湧き出ます。苦しみの時、大声で叫びながら祈ることはだれでもできます。しかし、祈りが答えられたとき、声をあげて感謝することはだれもができることではありません。10人のらい病の患者たちはいっせいに声をあげてイエス様にあわれみを求めました。しかし、彼らが治された後、九人は感謝の声をあげませんでした。ただサマリヤ人だけが大声で神様をほめたたえました。

“そのうちのひとりは、自分のいやされたことがわかると、大声で神をほめたたえながら引き返ってきて”(ルカ17:15)

このサマリヤ人は自分の以前の姿と癒された後の姿がどれだけ違うのかを知っていました。彼は癒された自分の姿をみて大声で神様に栄光をささげました。

2) そして感謝は過分な心、つまり謙虚な心から始まります。

ですから、感謝する人の特徴は私とみなさんも御存知のとおりに謙遜さであることがわかります。高慢な人は感謝しません。高慢な人は満足がありません。神様から与えられた恵みを当然のように考えるだけではなく、自分はもっと大きい恵みを受けるべきなのにこれしか恵みを受けてないのだとつぶやきます。うらむことがあります。当然不幸に思うことしか考えられないです。“私は感謝することができないのに幸せな人は一度も見たことがない。”(ジグジグラ(Zig Ziglar))

謙遜な人は過分に思います。自分の身にあまるほどの恵み、過分な愛を受けているのだと思います。謙遜な人にくやしさはありません。ただ過分な心だけがあります。

愛するみなさん!なぜ 9人のユダヤ人たちは感謝を表せませんでしたか。

それはきっとユダヤ人たちが持っている自慢の心があったかも知れません。ユダヤ人たちは神様の恵みを当然のように思われたかもしれません。彼らは神様の選ばれた民だったため、神様の特別な恵みを受けて当然だと思っていたかもしれません。反面、サマリヤ人は異邦人です。彼は祭司に行って彼の体を見せることすらできませんでした。そんなわけで、サマリヤ人は神様の恵みを受けた時、自分の身にあまるほどの恵みだと思いました。感謝する心は過分に思う心です。それが謙遜なこころです。自分の身にあまるほどだと思って生きている人はすべてが神様の恵みです。わずかなものでも神様の奇跡のように思います。そんなわけで幸せです。ですから、感謝する人は幸せです。

<3. 感謝する人にはどんなことが起きますか。>

1) 小さいことにも感謝することはさらなる恵みを受ける通路になります。

今日10人の中、たったひとりサマリヤ人だけが感激の中で、イエス様に引き返ってきて感謝をささげました。もしかすると自分を癒して下さったイエス様に感謝するのは当然のことだったかもしれません、感謝の結果はすばらしいものでした。イエス様に認められ、イエス様に愛されました。イエス様はサマリヤ人の信仰をほめながら彼に救いの確信まで与えて下さいました。“それからその人に言われた。「立ち上がって行きなさい。あなたの信仰があなたを直したのです。」(ルカ17:19)
9人のらい病の患者たちは自分の病気が治されたことで神の祝福が終りました。もちろん、それだけでも大いに感謝すべきことですが、とっても残念です。もし、彼らがイエス様に戻ってきて感謝をささげたなら、彼らもさらなる恵みを受けたはずです。

2) 感謝をとおしてもっと成熟した信仰の人になります。

なぜ感謝が大切でしょうか。感謝するとすべての環境において感謝することのできる条件を見出すことができるからです。感謝は成熟の尺度(しゃくど)であり、とっても大切な基準になります。感謝は成熟した人だけができることです。しかし、覚えるべきことは、感謝ができる時だけ感謝することはちいさい子どもでさえ可能です。しかし、問題は感謝ができない時でさえも感謝ができるならそれは、まことに成熟したクリスチヤンになると信じます。

聖書の注釈者として有名だったマティューハンリー(Matthew Henry)先生がある日夜道(よみち)を歩いていていた時強盗にあいました。しかし、彼は家に帰って来て次のような日記を書き残しました。

“私は感謝する。一つ目、昨日まで一度も強盗に会ったことがなかったからだ。二つ目、私の財布は取られたとしても、私の命はとられなかつたからだ。三つ目、私のもっているすべてが取られたのだが、それは大した物ではない。四つ目、私自身が強盗ではなく、強盗に襲われた者だからだ。”

3) 感謝する人にはもっと明るい未来が準備されています。

サマリヤ人は感謝をとおしてもっと明るい未来を開くことができました。神様にささげた感謝をとおして、彼は信仰の人になり、永遠の未来を得ることができました。小さい子どもに感謝を教えれば、その子どもの未来はかならず、明るくなります。幸せ

になる可能性が高いです。ほかの人々に愛される確率が高いです。感謝すると逆境を乗り越える力が与えられます。逆境の中で、感謝すると夢をいだきます。感謝は健康の秘訣です。神様は感謝のできる人のためにすばらしい祝福を備えてくださっておられます。

例え)全世界的に尊敬されているネルソンマンデラ(Nelson Mandela) 元南アフリカ共和国大統領は世界首相の中で一番牢屋に長く入っていた人です。なんと27年間も牢屋の生活をしました。彼が出獄(しゅつごく)した時、人々はマンデラがとってもやせた状態で出てくると思っていました。ところが70歳も越えたのにもかかわらず、彼はとっても健康で、たくましい姿で歩いて出て来ました。取材に来たある記者が質問しました。“普通の人でも5年も牢屋の生活をしても健康を失って出てくるのに、どうやって27年間も牢屋で生活していてこんなに健康であることのできる秘訣はなんでしょうか。”すると彼はこう答えました。“私は牢屋においても神様にいつも感謝しました。空をみても感謝し、地面をみても感謝し、水を飲みながらでも感謝し、食事を食べながらでも感謝し、強制労働をする時も感謝し、いつも感謝をささげたため、健康を守ることができました。”ネルソンマンデラ大統領が牢屋でいながらも健康が守られた秘訣はまさしく感謝にありました。感謝は彼を赦す人にさせました。牢屋から出てきた後彼は大統領に当選されました。さらにノーベル平和賞を受賞しました。牢屋においても自由を満喫し、牢屋においても夢をいだくことができた力は感謝にありました。

<4. メッセージのまとめ>

神様は小さい感謝をとおしてもっと感謝があふれるように祝福してくださる方です。マンデラが牢屋でささげた小さな感謝はノーベル平和賞を受賞しながら感謝し、大統領として仕えながら感謝するようにさせたのです。

感謝は神様の御心です。“すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。”テサロニケ人への手紙5章18節(1Thessalonians) (I give thanks in all circumstances, for this is God's will for you in Christ Jesus.)

感謝は恵みを受ける秘訣です。感謝は受けた祝福をさらに大きく育てる秘訣です。自足の秘訣であり、幸せの秘訣です。人生勝利への秘訣です。人生逆転の秘訣です。苦難の期間を耐え忍べる秘訣です。小さい感謝が波長(はちょう)を起こします。我々みな感謝する人になります。今日イエス様はサマリヤ人の一人の感謝にも喜ばれました。神様は感謝するのためにさらに大きい恵み、さらなる祝福を備えてくださっておられます。感謝する心で、分かち合い仕えましょう。感謝をもって神様に栄光をささげる我々クリスチヤンプレイズチャーチの信仰の家族みんなとなりますよう主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！